

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	名古屋大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナゴヤダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	愛知県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	キャリアデザイン実習
	学部・研究科等名	教育学部
	担当教職員名・役職	金井篤子教授横山悦生教授柴田好章教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	46	
受入企業等数	42	
受入企業等名	愛知県庁、株式会社JTB、中日新聞社等	
インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	毎年学生のニーズを把握したうえで、当学部のインターンシップ・コーディネーターが大企業・中小企業を問わず個別に交渉して開拓している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの事前指導として春学期に「キャリアデザイン演習」(2単位)、秋学期にインターンシップ実習と事後授業「キャリアデザイン実習」(2単位)を実施することにより、合計4単位としている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に教職員(インターンシップ・コーディネーター)が主要受入先を訪問し、先方担当者と同様、当該学生の研修状況を点検・確認している。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全15回の事前学習でもある「キャリアデザイン実習」の中で、インターンシップの趣旨や目的の理解のガイダンス、ビジネスマナー研修、インターンシップ中のリスクマネジメントを行っている。さらに学生の意識を高めるためキャリアポートフォリオ(名大版)の作成について授業し、自らのキャリアを考えながらインターンシップに参加させている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	夏季インターンシップを実施した学生には①後期科目「キャリアデザイン実習」(4回)を受講し②インターンシップ報告書、企業研究、アンケート等関係書類を提出させ③後日学部主催の「インターンシップ成果発表会」(1日)で報告させている。成果発表者に対してはよりよいプレゼンテーションを目指し、パワーポイントの作成の仕方や発表の仕方なども指導している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中、教職員(インターンシップ・コーディネーター)が主要受入先を訪問し、先方担当者より研修内容の説明を受けるとともに学生の研修への取組み態度や状況を確認している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後、学生が提出した報告書については担当教員が学生自身が何を学び、何が学生の今後の成長のための課題かを検討する資料として採用し、大学での学修の深化や今後のキャリア形成支援に活かしている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5～10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	8日間
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	愛知県庁5日間または10日間株式会社JTB5日間中日新聞社10日間特例として名古屋矯正管区において3日間のインターンシップのため、さらに大垣共立銀行にて5日間のインターンシップを行うことにより計5日間以上の実施期間を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生にはインターンシップ実施前に受入先の企業研究を行わせて、受入先の理解を深めさせ、それに基づきそのインターンシップでの目標を立てさせている。終了後には受入先から学生への評価シートを大学に送付いただき、学生の授業や評価に利用している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/docs/syllabus/h30_syllabus/F10603.html">http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/docs/syllabus/h30_syllabus/F10603.html</a> <a href="http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/docs/syllabus/h30_syllabus/F10604.html">http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/docs/syllabus/h30_syllabus/F10604.html</a>
問い合わせ先	大学等名	名古屋大学
	担当部署名	教育学部
	担当者役職名	インターンシップ・コーディネーター
	担当者氏名	大西隆信
	電話番号	052-789-5944
	メールアドレス	int2012@educa.nagoya-u.ac.jp